での改良が求められている。
　したがって、特色ある品質を保持しつつ、特に、消費者に対して合理的な価格水準での鶏肉等の供給が図られるよう生産コストの低減に努めるものとする。
　具体的には、増体性とともに育成率や産卵率等の経済形質のバランスがとれた種鶏の生産を図るため、引き続き素材鶏の能力強化を行う家畜改良センター、都道府県及び民間の関係機関が連携しながら、系統造成(注14)と組み合わせ利用(注15)を行うこととする。
　あわせて、地鶏等の安定的な雛の生産・供給を図りながら、和食の食材や地域の特色ある産品としての需要の裾野を拡大すること等により、流通業者や消費者の認知度を高める取組を推進していくことが重要である。

注14：系統造成
　素材とした個体群を対象に選抜と交配を繰り返すことにより遺伝的に優良で斉一な集団（系統）を作出する改良手法。
注15：組み合わせ利用
　造成された複数の系統について、雑種強勢効果を発揮する組み合わせを見い出して交配利用すること。

（２）能力向上に資する取組
①　改良手法
ア　家畜改良センター、都道府県及び民間の関係機関の連携
　国産鶏種の改良に当たっては、銘柄の多くに家畜改良センターの素材鶏が使われていることや、系統造成における雄系及び雌系の選択は地域の創意工夫とブランディングによるものであることから、家畜改良センター、都道府県及び民間の関係機関が連携して、次の（ア）から（オ）までに留意した鶏の改良を進めるものとする。
　この場合、家畜改良センター及び都道府県は種鶏のもととなる素材鶏の系統造成に、また、都道府県及び民間の関係機関はこれらの組み合わせ利用の成績等を参考とした種鶏の改良と実用鶏の安定供給に、それぞれ努める。また、必要となる遺伝資源の保持についての相互補完の取組を推進するものとする。
（ア）国産鶏種の系統造成に当たっては、様々な消費者ニーズに応えるため、遺伝的多様性を保持した上で、遺伝的能力評価に基づく素材鶏・種鶏の選抜及び利用を図り、増体性や繁殖性（産卵率及び産卵期間）の向上に努めるものとする。また、実用レベルの供給が可能な育種規模を確保するとともに、より多くの生産者及び消費者に向けて国産鶏種の特徴をＰＲし、その理解醸成に努めるものとする。
（イ）遺伝資源の保存や改良増殖に貢献する始原生殖細胞（ＰＧＣｓ）の保存等技術の習得及び普及については、関係者間で相互に補完できるような連携体制の構築について、検討するものとする。
（ウ）国産鶏種の肉質等の特徴を保ちつつ、喧噪性(けんそうせい)を低減させる飼養管理手法や改良手法について検討するものとする。
（エ）温暖化の進行等を踏まえ、日本の飼養環境に適した改良に係る知見の蓄積を進める。
（オ）鶏改良推進中央協議会(注16)等の場で改良に関する情報や消費者ニーズ等を改良関係者に伝達するとともに、異血導入等のマッチング、食文化やご当地食材とのコラボレーションの事例等ＰＲの方法について継続的な情報交換に努めるものとする。

注16：鶏改良推進中央協議会
　家畜改良センター、都道府県、民間団体等が消費者ニーズも踏まえ、効率的な改良を推進するための課題解決に向けた各機関の役割分担や業務の連携調整等を行う会議。

イ　遺伝子（ＤＮＡ）情報の利用
　鶏の育種改良等への利用を促進するため、有用な遺伝子情報の収集を進めるものとする。

②　飼養管理及び衛生管理
　鶏の遺伝的能力を十分に発揮させ生産性を向上するとともに卵質・肉質の向上を図るため、次の取組に努める。
ア　育成率向上や産卵の持続性の維持等を目的とした飼料設計の改善を図る。
イ　家畜疾病の発生予防及びまん延防止のため、生産者における飼養衛生管理基準の遵守の徹底について指導する。
ウ　生産者における生産管理の徹底や効率性の向上による経営基盤の強化のため、農場ＨＡＣＣＰやＧＡＰ等の生産工程管理の普及を通じ、生産者の家畜衛生、作業安全、アニマルウェルフェア等の取組を推進する。
エ　アニマルウェルフェアについては、鶏を快適な環境で飼養することが重要であることから、「国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェアの国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について」（令和５年７月26日付け５畜産第1062号農林水産省畜産局長通知）、「採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針」（令和５年７月26日付け５畜産第1066号）及び「ブロイラーの飼養管理に関する技術的な指針」（令和５年７月26日付け５畜産第1067号）の周知及びその普及を推進するものとする。
オ　スマート農業技術の導入による飼養管理方法の効率化を推進する。
カ　薬剤耐性菌の増加は、疾病治療を困難にし、ひいては生産性低下にもつながることから、ワクチン接種を含む飼養衛生管理による感染症の予防、抗菌剤の使用機会の削減等により、抗菌剤を真に必要な場合に使用する慎重使用に取り組む。